

2021年11月25日
株式会社伊予鉄グループ
総務課 089-948-3290

市駅前「坊っちゃん列車ミュージアム」 ～芳名録に残る「渋沢栄一」直筆サイン展示～

株式会社伊予鉄グループ（本社：松山市、代表取締役社長：清水 一郎）が運営する市駅前「坊っちゃん列車ミュージアム」は、本年12月で5周年を迎えます。

これを記念し、貴賓乗車芳名録に残る渋沢栄一氏の直筆サインを期間限定で展示いたします。

記

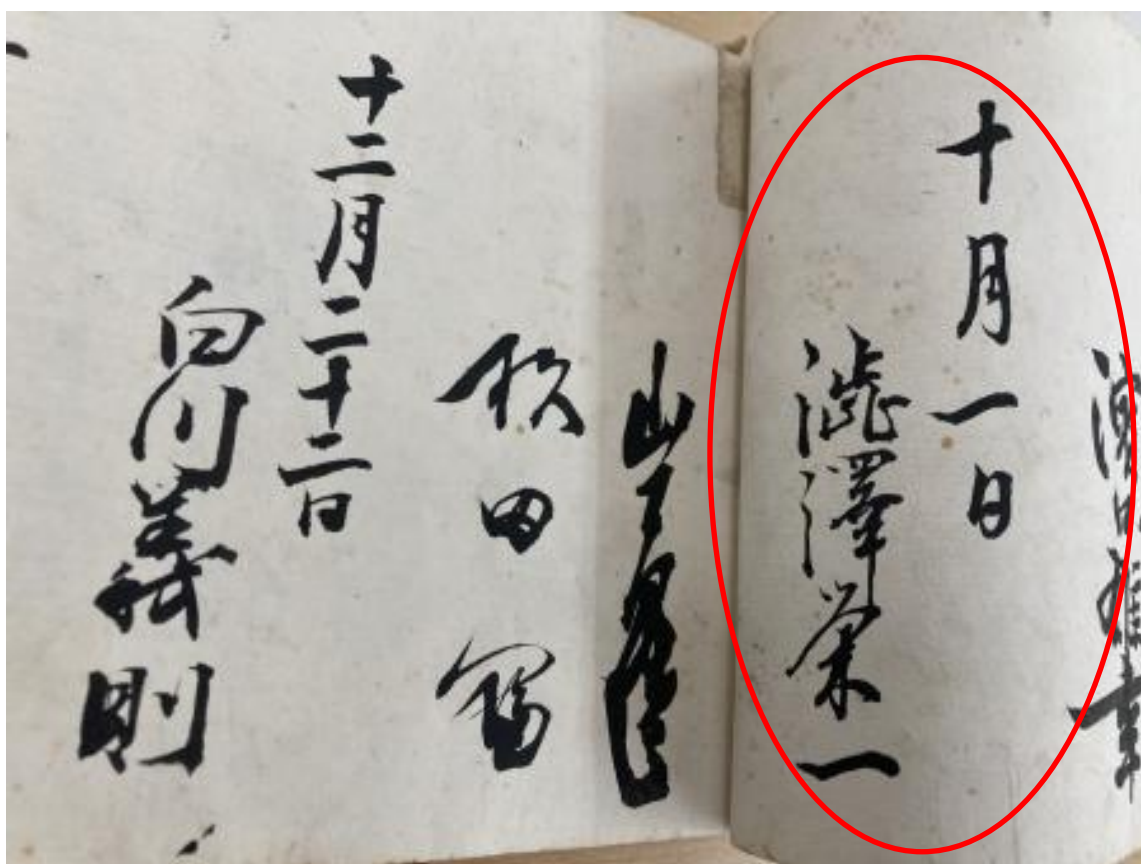
1. 展示概要

- (1) 公開日 2021年12月1日（水）より
- (2) 内 容 貴賓乗車芳名録（現物）の「渋沢栄一氏」乗車記録ページを展示
※坊っちゃん列車ミュージアム 入場無料 年中無休 午前7時～午後9時

芳名録とともに、

なぜ渋沢栄一は松山を訪れたのか？そして何をしたのか？

についても、解説を展示。



渋沢栄一の松山での行程

渋沢栄一記念財団の資料によると、大正4年(1915年)、渋沢栄一(当時75歳)は、第一国立銀行の頭取として、同銀行の広島及び熊本支店の開業式参列に向かう行程の前の2日間を利用し、宇和島出身で山下汽船(現在の商船三井)の創業者である山下亀三郎(かめさぶろう 1867-1944)からの依頼を受けて、初めて四国・松山を訪れました。

その行程については、9月30日、渋沢栄一は尾道から航路にて高浜に到着し、伊予鉄が用意した特別列車に乗車しました。この日は、官民合同歓迎会に出席して鮎屋旅館(現在のふなや)に宿泊しました。

翌1日、伊予鉄 井上要社長の先導にて人力車を連ね、道後公園を経て、現在の松山商業高校に赴きました。ここでは図書室を見学、記念植樹を行い、校庭で生徒に教諭を諭しました。その後、県公会堂でも学生らへ講話しました。

また、愛媛県農工銀行では商工業者に対して「実業家の本領」と題した講演、さらにお昼には、松山城天守閣で諸銀行が合同で開催した午餐会(ごさんかい)に出席、その後は再度県公会堂に赴き女性を対象に女子の高等教育に関する講演を行いました。

夕方、一泊二日の慌ただしい滞在を終えて松山駅(現 松山市駅)発の坊っちゃん列車で高浜まで移動し、船で広島・宇品に向かいました。

今回展示の芳名録は、日付からすると、最終日の列車乗車の際、署名されたものと思われる。なお、「渋沢」に続いて署名されているのは、松山行きを依頼した「山下亀三郎」と、第一銀行の役員「杉田富」です。

「日本資本主義の父」と呼ばれた実業家の渋沢栄一。NHK大河ドラマでも取り上げられ、今まさにクライマックスを迎えています。2024年度に刷新される新一万円札の図柄になることも予定されています。